（別紙4）　　令和　4　年度　　（様式1）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1970700645		
法人名	（有）みんなの家どんぐり		
事業所名	グループホームどんぐり		
所在地	山梨県南巨摩郡富士川町小林1954-7		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1－2－12
聞き取り調査日	令和 4 年 12 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

建物や小人数で生活しているところが家庭的な雰囲気を醸し出している。入居者様7名なので個々の情報を把握してきめ細かく対応している。個人の好みに応じて衣服を選んでもらったり、好きな食べ物を用意したり、趣味（読書や手紙のやり取り）のお手伝いをしている。季節を感じられるように散歩やドライブに出かけたり、季節の飾り物を一緒に作ったりしている。最後まで普通の生活ができるように、口から食べること、トイレで排せつすること、ゆっくりと休めることの支援をしている。コロナ下でご家族との絆が途切れがちになるが、毎月の手紙や写真で近況を知らせたり、窓越しの面会時にご家族に本人の様子をお伝えしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

農村地帯の静かな場所にあり、家庭的な雰囲気を大切にしている当事業所は、看取りまで視野に入れて平成17年に開所しました。デイサービスと居宅支援事業所が併設され、交流もはかれています。開設当所の職員も継続して勤務しており、利用者の安心に繋がっています。利用定員が7人と少ないため、職員が利用者全員を細かく把握しており「第二の我が家を目指し、ありのままを受け入れるほっこり笑顔で」の理念を実行し、疑似家族を実現しようと日々課題を見つけ、常に職員全員で試行錯誤しながら奮闘しています。又、管理者が看護師とのことで、医療的な安心にもなっています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）（※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか）（※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）（※窓越しの面会など距離をとった交流）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（様式１）

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームどんぐり

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念ではないが管理者、職員ともに理念を念頭に置いて日々のケアを行っている。	開設当初、職員全員の意見で作り上げた理念は、廊下の見やすい場所に掲げられ、出勤時確認できるようにしています。理念を踏まえ日々笑顔でケアを提供しています。	地域の中のグループホームどんぐりを意識できる理念を再度検討し、その理念を定期的に職員が再確認できる仕組みを作ることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流が少なくなっている。散歩の時には挨拶している。セキュリティのトラブルで外部に非常ベルがなったときには近所の方が駆けつけてくださったりお電話をくださってありがたかった。	自治会に加入しており回覧板等は回ってくるが、行事等コロナ禍で中止になったり参加を見合わせています。	地域との交流の手段として、事業所内の様子を発信し、できるだけ地域の中のグループホームであることを地域の方々に伝えることを期待します。（事業所のお便り等を回覧板で回す等）
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	峡南地区の医療、福祉の勉強会で当施設の実践を発表させていただいた。いろいろな意見を聞けて大変参考になった。相互に影響しあって良いケアに繋げていくきっかけになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面開催とさせていただいている。その中でホームの様子をお伝えしていろいろな意見を頂いている。なるべく外に出かけてほしい、などの要望にはできるだけお応えするようにしている。	コロナ禍で会議は開かれていないが、書面で、会員や家族全員に伝えています。書面には必ず意見要望記入欄をもうけ、返信を促しています。実際家族からは外出の要望が出され、感染状況を見て外出の機会をできるだけ作っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が居宅のケアマネジャーであるため行政とは常に連絡を取り合っている。運営推進会議でも意見をいただいている。	管理者から施設長に伝え施設長が市との窓口になり、事業所の様子などを伝えたり相談したりして、密に連絡を取っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けており、その中で身体拘束の禁止事項の学習をし、原則的にはしないことになっている。やむを得ず、行う場合は家族の同意を得て、毎月のミーティングで必要性の有無を話し合っている。	危険防止のため、時間を決めて玄関の施錠やセンサーマットによる対応は行われていますが、常に必要かどうかの検討を行い、利用者の反応を確認しながら、身体拘束のないケアを模索しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会や毎月の勉強会で高齢者虐待防止法や具体的な方策について学んでいる。毎月のミーティングで身体拘束の有無やその必要性について話し合い気が付かないうちに虐待や拘束をしていないか職員相互で確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で日常生活自立支援制度や成年後見制度について学んでいる。現在、1名の方が成年後見制度の手続きを開始しておりその支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定の際は直接お会いするか、電話でお話させてもらい同意を得ている。不安や疑問点も確認するようにしている。		

（様式１）

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームどんぐり

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月ごとに運営推進会議を書面で開催している。ホーム内の出来事や入居者様の状態を報告している。検討事項を記載してアンケート方式で意見をいただいている。防災や感染防止策やアクティビティについての意見をいただき日ごろの活動に反映させている。	運営推進会議の書面の要望欄、電話連絡時や窓越しの面会時に意見を吸い上げ、要望に答えるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員一人ひとりと面接を行い、意見や要望を聞いている。管理者は現場で一緒に働きながら日々、意見や提案を聞くように努めている。意見は話し合いの場に出し、みんなで検討できるようにしている。	年1回、施設長と個別面談する機会があり、管理者とは日々の業務の中で常に話せる環境にあります。又、月1回の職員会には施設長も参加しており、要望（空気清浄機の購入）等伝えることは出来ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の状態をラウンドして確認し、必要な職場環境の整備に努めている。面接時に個々の意見も聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場の様子を確認して職員個々の力量や対応能力の把握をしている。コロナ禍で研修の機会が減っているがリモート研修を進めている。また法人外の研修も周知して受講を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修の機会を持てるようにしている。リモート研修を受けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は表情や態度を見ながら声をかけたり他の入居者様との交流ができるように働きかけたりしている。不安な様子があればゆっくりと傍で話を聞くようにしている。家族の力が必要な時には窓越しの面会も勧めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前と入所時にご家族のホームに対する要望や不安なこと、困っていることなどを聞いている。要望についてはできるだけお応えするようにしている。入所後の様子も電話でお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のアセスメントで本人とご家族がホームに望むことを見極め、スムーズにホームに馴染むために必要な支援は何かを考えている。なるべく今までと同じ生活ができるように、なおかつ体調を整えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやおやつ作り、野菜の下ごしらえなどを一緒にしている。テレビや新聞を見ながら世間話をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ビニールカーテン越しではあるが面会で話をしてもらっている。果物やお菓子、季節の衣服などの差し入れもある。本人の様子を見て確かめてもらいながらいろいろな相談をすることもある。		

（様式１）

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームどんぐり

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限があったり自由な外出の機会が減っている。なじみの人や場所との関係をどう続けていくかが課題になっている。時々、自宅までドライブに行ったりしている。遠くの人とは手紙や電話の支援をさせてもらっている。	コロナ禍で馴染みの関係の継続が困難であることを重大に受け止め、できるだけ継続できるよう工夫しているとの話を聞くことができました。家族の写真を見ながらの会話や自宅までのドライブ、手紙、電話等で支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や話せる人同士で席を近くにしている。利用者様同志が一緒に作業したり散歩したりして親密感が持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所がほとんどでお亡くなりになったときには葬儀に参列している。また49日までに思い出のアルバムを作り職員全員の手紙を添えて送らせてもらっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室を今までいた場所と同じ配置にしたり馴染んだものを持って来てもらっている。やりたいこと（読書、新聞を読む、手紙を書く等）をしてもらっている。外に行きたい人には行けるように努めている。	日頃の会話の中からや家族からの情報で意向を把握しています。難しい利用者には、手をにぎる等スキンシップを図る、視線をあわせる、利用者からのアプローチに応える等、非言語を観察し、利用者の心地よい状態を探って意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前からご家族に本人の生い立ちやどういう暮らしをしていたかを聞いている。利用していたケアマネジャーやサービス関係者からも情報を得ている。入所後はアルバム見たりしながら本人からも思い出話をしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体温表で一日の食事や排せつの様子を把握している。日々の記録で心身の状態やADLの変化について確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の朝のミーティングや月1回のミーティングで入居者様一人ひとりの課題やケアの方向性について話し合っている。受け持ちの職員がモニタリングをして介護計画に反映させている。介護計画の更新時はご家族と話し合い希望や不安な点はないか確認している。	担当制になっており、担当が三カ月に1度モニタリングを行い、職員会で他の職員と共有し、家族の意向を確認した看護師（管理者）と意見を合わせ、プランにつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に一人ひとりの状態とケアの実践、評価を記入して職員個々が勤務の始まりに記録を読んで確認している。気になることや新しい工夫はその場で話し合ったり、全員で考える必要がある事柄は連絡ノートで意見を募ったりミーティングで話し合って決定している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に散歩に行きたい、広告のハンバーガーが食べたい、図書館の本を読みたい、手紙を書いて出したい、などの希望に対応している。お墓が気になる方には菩提寺の住職さんと話し合えるように段取りをしてある。		

（様式１）

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームどんぐり

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の愛育会から古布をもらい、鋏で切ったりたたんだりしてもらっている。コロナ禍で地域とのつながりが薄れてしまっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は家族、本人がそれまでのかかりつけ医との関係を続けられるように支援している。しかしコロナ禍の感染対策で受診が施設対応となり対応できる範囲での受診にさせていただいている。受診往診の内容は家族にお伝えしている。	入所時、かかりつけ医の確認をしているが、現在はほとんど入所前のかかりつけ医が主治医となっています。コロナ禍で職員が受診の付き添いをしているので、詳細を伝えることができており、密に連携が取れています。受診後は迅速に家族に結果報告をしています。又、受診が難しい状態になってきた時には、往診可能な医師の変更もスムーズに行えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるため、ともに介護をしながら日々情報交換をしている。介護職の観察やアセスメントをもとに看護や受診の方向性を決めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際は情報提供書を送っている。また、病院の地域連携室や病棟看護師と連絡を取り合い入院中の状態を確認させていただいている。退院時は関係者でのカンファレンスをお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に終末期に当ホームでできる事とできない事をお伝えして入所の判断をしてもらっている。入所時から終末期に向けての希望の確認書の記入をお願いしている。本人にもさり気なく最後の時の希望を聞いている。	入所時、終末期の希望について本人や家族に確認し、事業所で支援できる内容についても十分説明した上で入所していただいています。実際看取りの時期に入ると、家族、主治医、事業所と以前に確認した本人の意向を踏まえ、何度も話し合いを重ね、一家族一家族が納得のいく終末を迎えられるよう、温かい支援を丁寧に行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の勉強会で救命救急の方法について訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回法人全体の日中の避難訓練、年1回グループホーム単体での夜間想定の避難訓練を行っている。コロナ禍以前は地域の方にも参加をお願いしていたが最近は施設内だけで訓練を行っている。	年１回消防署の協力もあり、法人全体の訓練を行い、夜間想定は事業所単独で、利用者の参加も含め行っています。コロナ前は夜間想定の訓練の際に、地区の住民宅（20軒程）を毎年訪問し、協力の依頼をして実際に参加して頂いたので、感染状況を見て地域の方の参加依頼も再開したいとの話が聞けました。法人全体で防災倉庫があり食料等備蓄されています。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への呼びかけは名字でなく名前を呼ばせていただくことが多いが本人のに確認し了承を得た上で呼ばせていただいている。方言で話しかけることもあるが口調や速度に気を付けて柔らかく伝わるように気を付けている。	同性の利用者が多いため名前で呼んでいます。疑似家族を目指しているので方言の使用もあるが、人生の先輩であることを常に念頭におき、節度ある話し方を心がけています。トイレに誘う際は手振り身振り等で、プライバシーに配慮した伝え方を工夫をしています。	

（様式１）

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームどんぐり

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が出せるように話しかけている。食べたいものや行きたいところ、休みたいなどのいろいろな願いが出てくるので相談しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きる時間や寝る時間は一人ひとりのペースを尊重している。天気が良くお出かけしたい。、とか広告のハンバーガーを食べたい、とかお部屋でゆっくりと読書したいなどの希望があればなるべくかなうように職員同士で相談して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は好きな洋服や下着を選んでもらっている。お出かけの時はコートや帽子、マフラーなどのおしゃれを楽しんでいる。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	トウモロコシの皮むきや梅のへたとり、エンドウ豆の筋とりなどをしてもらっている。季節の行事である小正月の団子作りやおはぎ作りも一緒に行っている。食事の時に使うおしぼりを丸めてもらっている。	併設のデイサービスの厨房の協力を得ながら、バラエティーに富んだ食事を提供しています。食材の下ごしらえやテーブル拭き等行っています。行事食（おせち、お彼岸、敬老会、クリスマス等）も季節に合わせ提供しています。日々の会話や広告を見て寿司等の要望があると、メニューを変更して提供することも多々あります。畑でとれた野菜が食卓に乗ることもあり、楽しみのある食事が提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量に応じて盛り付けの量を変えている。義歯の有無や咀嚼、嚥下の状態、今までの食習慣に合わせて普通食、粥、ペースト食、朝のみパン食などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる人は自分で歯磨きをしてもらっている。できない人には義歯の洗浄やうがいの手伝い、うがいができない人は歯磨きティッシュで清拭をしている。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日通した体温表で排せつのチェックをしている。そこから排せつのパターンを読み取り必要時に声掛けしてトイレ誘導している。食事の前後にはトイレに行くように勧めている。なるべくトイレで排せつできるように支援している。	排泄パターンを職員全員が把握しているので、パットの使用量が減ったとの話を聞くことができました。又改善が見られないまでも現状維持を目指し、トイレでの排泄を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸を動かす作用のあるサツマイモ、カボチャ、キノコ、豆類、ヨーグルトなどの乳製品を多くメニューに入れている。座ったままでできる体操を行っている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	昼、夕食後には皆さん眠ってしまうので午前中に入ってもらっている。入りたくない人には無理強いせずに入りたくなるまで待っている。足浴や清拭のみになることもある。	週2回の入浴を基本としています。入浴を嫌がる利用者には、時間や曜日、職員を代え対応しているが、それでも難しい場合は、足浴や清拭に変更することもあります。介助方法は、一般の家庭風呂なので、重度者への対応は二名あるいは三名で安全に行っています。浴後は、自家製の梅ジュースや甘ゆず、ホットカルピスなどを提供しています。	家庭風呂であるため重度化した利用者に対しての入浴には限界があると思うので、設備の検討も含め、できるだけ気持ちよく入浴できる工夫を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就眠時間は一人ひとりの生活習慣や状況に応じて対応している。眠くない人はリビングでテレビを見ていることもある。気持ちよく休めるように室温や寝衣、寝具の調整をしている。		

（様式１）

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームどんぐり

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法を書いた紙を個人ファイルに挟んであり職員はそれを確認しながら与薬をしている。その作用と副作用について観察し記録に書き残したり、職員同士で話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の作品作り（壁飾り、つるし飾り）をしたり、散歩に行ったり、読書をしたり手紙を書いたりしている。洗濯物たたみや清拭用の布をたたんだりすることをみんなで一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日には天気が良ければ希望を聞きながら散歩やドライブにでかけている。家族の協力を得ながら自宅近くへドライブに行くこともある。	併設のデイサービスの車を利用し、自宅へ行ったり、行きたい場所にドライブしたり、コロナの感染状況を踏まえて実践しています。天気の良い日には、庭先のベンチで昼食を食べたり、お茶の時間を楽しんだりと気分転換をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が深い方が多く金銭管理ができない。財布を持ちたいという希望の人もいない。買いたいものは代行して買って来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員が電話し家族が出たら交代して直接話をしてもらっている。手紙は代筆して投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花や飾り物をしている。寒くなりリビングのテーブルはこたつにして温まってもらっている。廊下の灯りは調光式になっており必要な明るさで過ごせるようにしている。リビングのそばにオープンキッチンがあり調理の音やにおいがしている。	リビングには腰掛用のこたつが設置され、ふすまや障子が家庭的な雰囲気を醸し出しています。ふすまには利用者と職員で作った季節のタペストリー（クリスマス仕様）が飾られています。厨房はリビング全体を見渡せる位置にあり、調理中のにおいや音が間近に感じられます。又、窓も大きく開放感があり、日差しも十分に入る明るい空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テービルは3つに分かれておりそれぞれ気の合う者同士で座ってもらっている。廊下にはソファーがありそこで過ごすこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや仏壇、使い慣れたたんす、飾り棚に置かれた写真、孫が書いてくれた絵など大切なもの愛着のあるものを部屋に置いてある。	掃き出し窓には障子がはめられ、床は畳で、和風な作りで落ち着いた部屋になっています。仏壇や飾り棚、家族の写真や利用者の作品が飾られ、くつろげる部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーは大きな日めくりにしている。居室の入口には受け持ちの職員がわかりやすく大きな入居者様の表札を作っている。トイレにも大きく表示がしてある。リビングのテーブル席からトイレ、居室までは車いすで自走しても行けるような動線にしてある。		